

2015年ネパール・ゴルカ地震にともなうボテコシ川流域の斜面災害

Slope disaster along Bhote Kosi River, induce by Nepal-Gorkha earthquake in 2015

*八木 浩司¹、廣瀬 悠¹、檜垣 大助²、若井 明彦³、千木良 雅弘⁴、佐藤 剛⁵、佐藤 浩⁶*Hiroshi YAGI¹, Yu Hirose¹, Daisuke Higaki², Akihiko Wakai³, Masahiro Chigira⁴, Go Sato⁵, Hiroshi, P. Sato⁶

1.山形大学地域教育文化学部、2.弘前大学農学生命科学部、3.群馬大学大学院理工学符、4.京都大学防災研究所、5.帝京平成大学大学院環境情報学研究科、6.日本大学文理学部

1.Faculty of Art, Science and Education, Yamagata University, 2.Faculty of Agriculture and Life Sciences, Hirosaki University, 3.Graduate School of Science and Technology, Gunma University, 4.DPRI, Kyoto University, 5.Graduate School of Environmental Information, Teikyo Heisei University, 6.Faculty of Humanities & Sciences, Nihon University

2015年4月25日起こったネパールゴルカ地震にともなって、震源付近の大ヒマラヤ山麓部では、多数の斜面災害が発生した。筆者らは、災害直後から公開された衛星画像を用いて被災箇所の位置データや規模を把握してきた。その後、ALOS 3Dから作成した地形図やネパール地質鉱山局発行の地質図との重ね合わせから、発生した斜面災害の地形的、地質的特徴について検討した。その結果、本地震に誘発された斜面災害の大半は、浅層崩壊で、それらは河川沿いの谷中谷の肩をなす、遷急線沿いに集中していることが明らかとなった。カトマンドゥからチベットを結ぶアーニコ・ハイウェイが走るボテコシ沿いに於いては、バラビセからコダリに至る流域で、約1200箇所の斜面災害（崩壊）が認められ、特にスレート岩、片麻岩、ドロマイトの分布域で集中的な分布が認められた。それらの発生斜面の傾斜は、30-50度であるが、片麻岩類に較べスレート岩地域でより低角度からの発生傾向が認められた。

キーワード：2015年ネパール・ゴルカ地震、斜面災害、遷急線

Keywords: Nepal-Gorkha earthquake 2015, slope disasters, break of slope

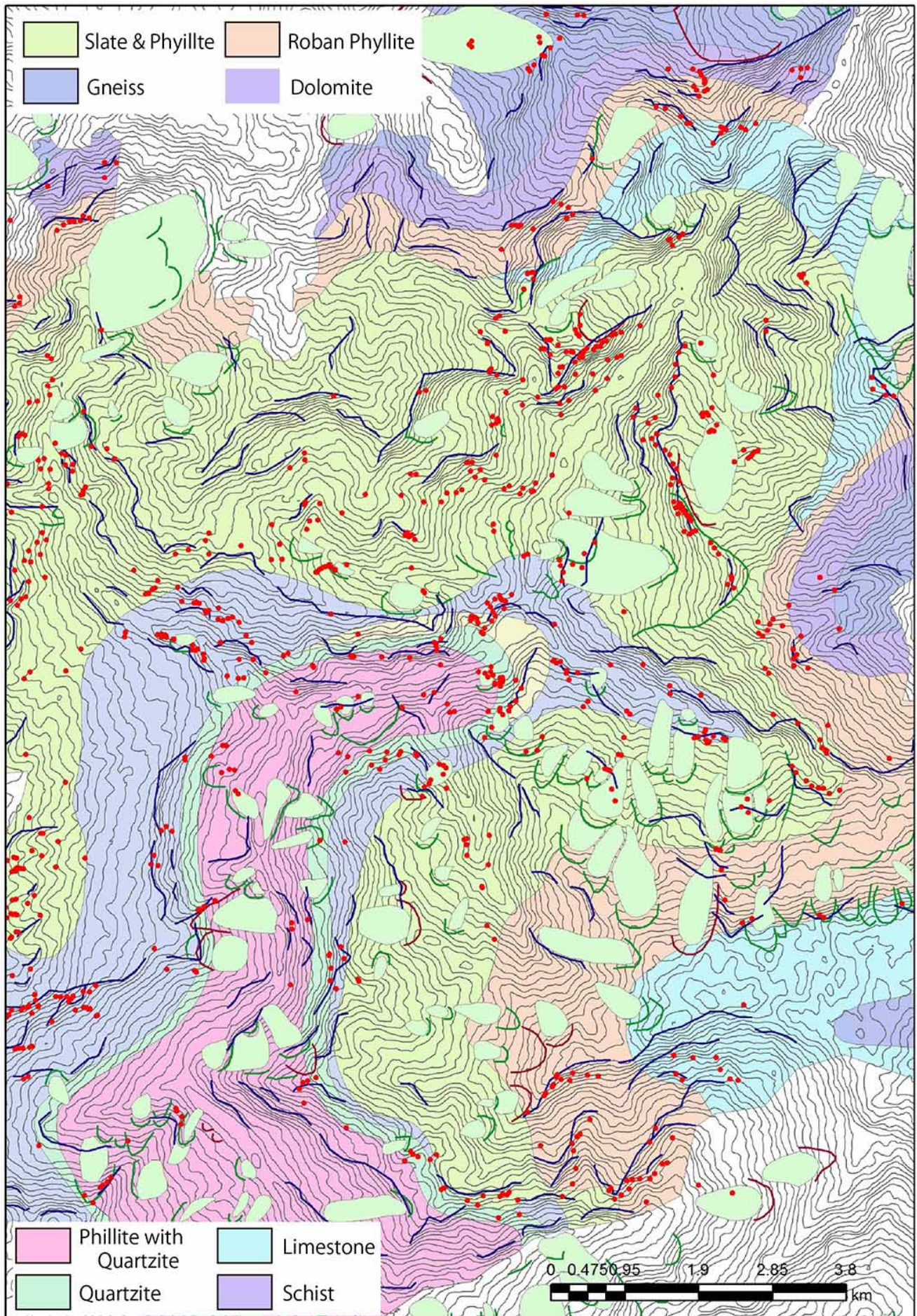


Fig.1 Distribution of landslides, geology and break of slope